

「全国都市緑化あいちフェア基本構想(案)」に対する御意見の概要と県の考え方

ご意見	県の考え方
<p>1 都市緑化は、あくまでも都市部における”生態系の復活・保全”に他ならず、それは都市部における生物の多様性に寄与するものです。 また、この世界に生きる生き物としての人間であることを思い出す緑にもなり、ともすれば自然環境生態系を軽視して機械的に環境破壊をしてしまう私たちの過ちにストップをかけてくれる教育的効果があるということなのです。 それを忘れてただ木や花を植えることだけを推進しても片手落ちというべきでしょう。 それを念頭に置き、その場所によってどのような樹木や花を植えることがいかに工夫すること、提案することも、されていいのではないのでしょうか。 生態系保全をいえば、学校や公園に身近で簡易なトンポ池などの復活をもっと推奨してもいいのではないのでしょうか。</p>	<p>今回のフェアは、愛知万博からの10周年を記念するものとして、また、生物多様性の保全についての世界会議「COP10」の開催地としての「愛知」の特性を活かし、環境や生物多様性に配慮した展開を工夫していきたいと考えております。 フェアの事業展開において、こうした自然生態系保全への配慮等について必要な検討等をするため、今後も専門家や県の関係部局との連携を図ってまいりたいと考えております。</p>
<p>2 都市周辺の里山を人が出入りしやすい手近な天然資源の産地として活かすことも考えねばなりません。構想計画書としてはあまり触れられていないように思われます。 保全と資源の採取は、表裏一体なところがあります。とりすぎてもだめですが、とらなすぎても山の荒廃を招くからです。ここに、里山経済を成立させるための智慧が必要になります。 今は里山資源の使い道が無いことが、里山保全のネックになり、その先の山林資源も同様、そして荒廃につながっていることは言うまでも無いでしょう。</p>	<p>御意見をいただいたような都市周辺の里山利用・管理については、都市緑化のみならず多方面から長期的に検討していくべき事項と考えております。 今回のフェアにおいては、会場内で「里の体感エリア」を設け、多くの方に「里山」や「緑」を身近に感じ、里山の重要性を考えていただけるような展開を進めてまいりたいと考えております。</p>
<p>3 地産地消で言えば、まず猿投の山林の木をどのように都市部で使うか、その用途を皆で考えたり、販促を行うことも、その一環だと思います。 それを、メインキャラの森の精モリソー、キッコロで紹介するのはどうでしょうか。</p>	<p>御意見をいただいたとおり、地産地消の観点についても関係機関とも連携をとりながら、間伐材の活用や、学びのエリア等で開催を予定しているワークショップ、展示等などでの展開を検討してまいりたいと考えております。 なお、フェアの公式キャラクター「モリソー」、「キッコロ」は、子どもたちにも親しみやすく効果が期待できるため、趣旨に合う事業については積極的な活用を考えてまいります。</p>
<p>4 都市緑化を、単に緑地を増やすというだけでなく、「環境にやさしい（ニグリーン化）都市（地域）にする」という発想をもてないでしょうか。 「愛知グリーン都市宣言」とでもいうものをして、より環境・生態系に良い効果の有る製品（木製品）を県民に推奨したり行政（県施設）、企業などでも活用するようにする。 石油由来のプラスチックではなく、木質プラスチックで室内など見るところの自動車部品を作ってもらっても、アピールになるでしょう。</p>	<p>御意見をいただいたような都市緑化に関する考え方は、環境に配慮した取組みが進みつつある昨今の現代社会にマッチしたものと考えます。 関連部局等への情報提供など、今後の参考にさせていただきます。</p>
<p>5 苗木を育て東北被災地へプレゼントする企画など、被災地復興へのお手伝いをこのフェアで強く表してはどうか。</p>	<p>県としても被災地への支援についてはさまざまな取組みをしているところですが、いただいた御意見を参考に、当フェアにおける事業展開の可能性について検討していきたいと考えております。</p>
<p>6 モリコロパークを中心として県内各自治体のサテライト会場を展開する計画ですが、「都市緑化」フェアと言う趣旨において、緑のチカラを知る機会として特に大都市での緑化手法として屋上緑化、壁面緑化等の事例を県民に広く公開してはどうでしょうか。 (中略) そこで公共に関わらず、広く民間でも既に行われている質の高い屋上緑化、壁面緑化の事例を、管理者の了承を得て一般公開し、普段は立ち入りが出来ない緑化等の事例を目の当たりにすることで、屋上緑化、壁面緑化、ひいては都市緑化が如何に温暖化、都市のヒートアイランド現象に効果があるか、実証と共に体感できる工夫をし、これを民間サテライト会場として展開してはどうか。</p>	<p>フェアの開催については、企業（民間）をはじめとする多様な主体が協働、参加して事業を推進していく予定で、 いただいた御意見にありましたように、昨今では屋上や壁面緑化の取組事例も数多くあることから、緑化によるこうした環境配慮の事例紹介はとて有意義なものと考えます。 今後の計画の中で、企業等と協働した展開についても検討してまいります。</p>
<p>7 植物を育てる土台として、特に農業など土の重要性をテーマの一つとして取り扱うことも、これからの時代には必要かと思えます。</p>	<p>いただいた御意見は、展示や催事等の基本計画策定の際の参考にさせていただきます。</p>
<p>8 愛知県内はもとより全国から来場する人々に全国一の生産を誇る「愛知の花」をPRすべきと考えます。</p>	<p>御意見にもありましたように、愛知県の花き産業は50年間も生産額全国一であり、県としましてもこの機会に愛知らしさの一環としてのPRを展開していきたいと考えております。</p>
<p>9 具体的には、 ① この機会に合わせて、「県内の様々な場所でイベントを開催する」とともに、「一般市民を対象とした花き生産施設を視察するツアー」を提案して、県民等へのPRを積極的に行う必要がある。 ② また、このような取組に対し、県域で組織されている花き生産者団体と連携・協働してはどうか。運営組織等に参加させるなど、あいちの強みとして活かさないか。 ③ 花のある暮らしを県民に浸透させていく一手法として、前年度から、盛り上げ事業を展開し、協働展示等に結びつけてはどうか。 ④ 緑化フェアの会場を「県内産の花」で埋め尽くす。事前に県内生産者が出荷できる花きの調査をすとともに、前年度から、植栽・装飾計画を明示し、生産者が安定的に生産できるように検討してください。</p>	<p>いただいた御意見は、会場計画（展示や植物調達）や催事、広報宣伝等の基本計画策定の際の参考にさせていただきます。 また、御意見にありました花き生産団体との連携・協働に関しましても、農林水産部局等関係機関とも連携しながら、今後、検討してまいります。</p>
<p>10 フェアの際に、愛知万博10周年記念イベントとして、国際親善と交流の観点から、「世界さくらの女王」を招聘し、愛・地球博記念公園の存在を世界に向けて発信してはどうか。</p>	<p>愛知万博の理念や成果が継承されている空間である愛・地球博記念公園でのフェアの開催であることから、国際交流の視点は重要であると考えており、いただいた御提案については、今後の基本計画策定の参考にさせていただきます。</p>

ご意見	県の考え方
<p>11</p> <p>全国都市緑化フェアは、愛知県の花生産を全国にアピールする良い機会と思います。花の生産を始め農業全般が厳しい状況とも聞いていますが、このようなイベントで、県民、日本国民が愛知の花を知ると同時に、愛知県で生産される花でフェアの会場等を飾るなど、花の需要・消費を喚起し、花の生産者も笑顔で経営できるような環境を作り上げて欲しいと思います。このイベントで、愛知の花を始め農業を全国にアピールしてください。</p>	<p>御意見にもありましたように、愛知県の花き産業は50年間も生産額全国一であり、県としましてもこの機会に、愛知らしさの一環としてのPRを展開していきたいと考えております。</p>
<p>12</p> <p>(全体) 4つの基本方針が良い。具体的にどのように展開するのかが課題。 大成功した万博を思い起させ、ワクワクして行きたくなる内容に。 (会場計画) ①地球市民交流センターの位置づけや役割が弱いので、サブセンター(化)して集客できる内容に充実させる。 ②北駐車場について、街中会場の手法を使い緑豊かな駐車スペースとする。 ③西口エントランスに日本館や大地の塔をイメージした立体花壇を設置する。また、大花壇は万博時の植栽を再現する。 (サテライト等) 県下全体で展開するために、市町村のサテライト会場の充実が必要となるが、予算的措置がないと協力が難しい。独自助成が難しい場合は、森と緑づくり税活用する。 (その他) ジブリとの連携ができれば、面白いものができるのではないかと。</p>	<p>今回のフェアは、愛知万博からの10周年を記念するものとしても位置付けており、いただいた具体的な御意見を参考に、この後策定する基本計画の中で会場計画等の具体的な展開内容を検討してまいります。</p> <p>御意見のとおり、サテライト会場の充実についてはフェアの成功にとっても大変重要なものと考えており、今後、あいち森と緑づくり事業の活用も含め、市町村等との調整を図ってまいりたいと考えております。</p>
<p>13</p> <p>例年開催される事例と同様な構成内容で、愛・知で開催される独自性や斬新さ、成功させよう!といった情熱やグローバルな視点が読み取れません。 ・特に4-3 会場構成のサテライト会場及び協賛会場の位置づけや内容が、表題のごとく『浅い』のが気になります。 ・例えば、メイン会場はアクセス面で地元県民が来場するには限定されるため、サテライト会場や協賛会場とのネットワークや連携面での基本的な考え方、仕掛けのイメージを打ち出し、基本計画や協働団体への呼び掛けに反映しやすいように記載されるべきと考えます。 ・基本構想の文面にも、「基本構想策定時期から～」と提唱されているので、今一歩踏み込んだ記述内容にできないものか との思いが強いです。 ・特に、地元県民や地元企業・団体は、『新たな面を加味した都市緑化フェア』を期待しています。『愛地球博』の継承と新たな都市緑化への情熱や活動を感じられる内容や防災面や被災した場合の公園や緑地の関わり、花粉症やPM2.5など今日の課題との相関性などにももっと言及すべきではないでしょうか。</p>	<p>今回のフェアについては、愛知万博の10周年を記念する事業として位置付けていることから、御意見のとおりグローバルな視点に立った事業展開、「愛・地球博」の理念継承等を感じられる事業展開についても、今後関係者との連携等を通して検討してまいります。</p>
<p>14</p> <p>「愛知らしさ」を実現させるためのパイロット・プランとして、本構想では物足りなさを感じます。 ・愛知県内、32市14町2村の特色・アイデンティティー(歴史・文化・産業・環境など)を打ち出し、各会場での興味のある者の交流や経済の活性化に繋がる方向性を導くよう記述を望みます。 ・メイン会場での構想内容とまでは言わないまでも、尾張東部、尾張北部、尾張西部、名古屋、三河西部、知多半島、三河中部、三河北部、三河南部といった圏域や都府での特色や役割などをゾーニングなどによる記載と相互の連携などを記載されることを望みます。 ・当然、反対意見や修正意見が出るとは思いますが、それこそが成功に繋がる第一歩だと思います。 ・地元での『人・モノ・情報』の掘り起こしや風土、新たな取り組みなどをベースとしたアイデア・フラッシュを加味した内容も記載されることを希望します。</p>	<p>今後、専門家や関係者による意見聴取、市町村との連携、調整等を実施し、いただいた御意見を参考に、今後策定する基本計画の中でより具体的に記載していきたいと考えております。</p>
<p>15</p> <p>県民(NPO・学校・企業・団体)参加の手法等も抽象的過ぎると思われれます。 ・記載内容では、従来の表現方法に留まっているように思われます。 ・革新的事例手法や伝統的事例手法を記載することや、NPO団体ならこのような参加手法が可能であるとの紹介を記載することも有効と考えます。 ・学校では、こんな参加手法が過去にあり、成功事例を紹介するといった事項や企業での参加も日本式ボランティアではなく、経済的ペースに乗ったボランティア手法の紹介や連携手法の成功事例も紹介されることによって、地元の活性化や成功評価に繋がるものと考えます。 ・メディア計画、メディア連携の項目も具体性を加えて頂けたらとの思いもあります。イメージを共有しやすいような内容を望みます。 ・より多くの参加者数により、本来の意義が達成できる要因とすれば、もう少し踏み込んだ(より具体的な)表記が望ましいと存じます。 ・サテライト会場や協賛会場とメイン会場との連携面を特に希望しています。(海外の国や都市との連携も希望する事項の一つです。)</p>	<p>今後、専門家や関係者による意見聴取、市町村との連携、調整等を実施し、いただいた御意見を参考に、今後策定する基本計画の中でより具体的に記載していきたいと考えております。</p>

ご意見		県の考え方
16	<p>基本構想を読ませていただいて、強く感じましたことは「愛知ならではの」特色に欠けているように思えたことです。ですから、この基本構想は、多少の文字修正をするだけで、他の府県に移し替えてそのまま適用できるように思えます。「愛知ならではの」特色とは何か、いくつかあるとは思いますが、本県は日本で最大の緑化植物の供給基地であるという点につきると思います。第2位の県の3倍にも及ぶ生産を半世紀にわたって維持しているこの凄く愛知の特色を生かすことが構想の中でほとんど考慮されていないように思えます。</p> <p>愛知が日本一であることを知っている市民が少ないことも問題で、この機会にそれをアピールしていただき、本県の農業の活性化につなげていただきたいものだと思います。この基本構想を見た範囲でいえば、どちらかと言えば「消費者側サイド」の計画に偏っているように思えてなりません。縦割りでではなく、「生産者側の行政」の積極的な参加が期待できるような横断的な計画を推進していただきたいと心から願う次第です。</p> <p>具体的な内容として以下のような提案をいたします。</p> <p>① 花き緑化植物の生産現場を市民に見せる「緑化植物生産ゾーン」を作るべきかと思えます。海外で開催される緑化イベントでは必ず生産現場の実態を見せるゾーンが設定されており、消費者と生産者をつなぐ工夫がされています。</p> <p>② 生産ゾーンでは、「未来へつなぐ生産技術」の展示コーナーも作っていただきたい。バイオテクノロジー、LED電球、再生可能エネルギーの利用、養液栽培などの先端技術をはじめ、将来への生産技術の展望を示し、市民への夢と生産者への指針につなげていただきたい。</p> <p>③ 農家の生産現場を視察する産地ツアーを実施し、これが日本一の生産県の実情だという現場を市民に紹介する企画を考えていただきたいと思えます。いわばエコツアーというべきものです。</p> <p>④ 花や緑化植物をふんだんに使い、少なくとも身近に開催される静岡県よりは多くの花き緑化植物を使っていたき、さすが「日本一の生産県」のイベントであると全国にアピールしてほしい。</p> <p>⑤ 生産農家が多くの行事に参加できる工夫が欲しい。世界で最高水準の品質を誇る愛知の産物展示（できれば住民参加のコンクール）、世界レベルの高水準の新品種展示、その装飾技術など展示内容は豊富にあるかと思えます。</p> <p>⑥ 「メッセ」というべきか、「生産者」「流通業者」「消費者（販売、造園業者などを含む）」のすべてに役立つ見本市などの開催、各界の意見交換の場の設定、生産者が主導する花作り教室の開催なども計画して欲しいと思えます。これらは愛知から全国への情報発信にもつながります。</p>	<p>御意見をいただきましたように、本県としましても、花きの生産額が50年間にわたり日本一であるという特色を活かした事業企画は、重要だと考えております。</p> <p>具体的な展開内容につきましては、いただいた御意見・御提案や専門家の意見を参考に農林水産部局や花き関連団体等との連携を密に図りながら、基本計画の中で検討してまいります。</p>
17	<p>尾張藩時代から引き継がれている名古屋、愛知の伝統的な園芸文化を市民に見せる企画がほしいと思えます。</p> <p>① 愛知独特の伝統技術の展示ゾーンの設置（たとえば、アサガオ作り、キク作り、盆栽など・・・）</p> <p>② 愛知ならではの古典的な花の装飾技術の展示（たとえば菊人形など）</p> <p>これらと、日本一の生産につながってきた流れを市民に見せたい。「キクの過去（伝統）、現在、未来」、「愛知から世界へ発信する花」、「蘇る江戸時代の技術」などのテーマが考えられます。</p>	<p>御意見をいただきましたように、「愛知らしさ」を活かした企画内容についても今後策定する基本計画の中で検討してまいります。</p>
18	<p>あいちフェアは大愛知で行うこと、万博10周年記念であることから世界に向けて回想や理念継承などを発信しなければならぬと考えます。また、これは構想段階であるということかもしれませんが、広く一般市民にパブリックコメントを求める場合には、楽しさやワクワク感が湧く現地性や具体性を出して分かり易く楽しさのある構想で意見を求めるべきと思えます。</p> <p>今後の構想策定や計画作成においては、愛知万博での情熱を彷彿と感じさせ、そして愛知全体に亘るあいちらしさを演出出来るものになるようなものにして頂くことをお願いします。</p> <p>今後、あいちらしさを万博の情熱を伝える速やかに進める体勢による対応によって、あいちフェアが成功することを期待しております。</p>	<p>貴重な御意見として真摯に受け止め、今後策定する基本計画の中では、より具体的な内容としていくよう検討してまいります。</p>
19	<p>本フェアは2005年愛知万博の10周年を記念して開催されるものとされながら、内容がほとんど無いのは理解できない。大きな欠陥事項ではないか、根本的に追加して修正すべきではないか。</p> <p>本フェアは2005年愛知万博の10周年を記念して開催されるものと認識しています。</p> <p>愛知万博は自然との共生を図る為の成果を世界に発信して大きな評価を受けました。</p> <p>それを記念すべき本フェアに於いては、万博の回想や、愛知万博後の成果の現状等をきちんと理解している者を交え、世界に発信するハード・ソフトを肌身に感じられる構想にして頂きたい。</p> <p>本構想では「協働」に関してだけ万博の成果の如く、それも表面的にしか触れず、単なる他の過去フェア例に倣ったような構想では大愛知の、そして愛知万博10周年記念事業を感じさせることは出来ない。万博関係者から強い批判も危惧される。</p> <p>平成26年の静岡フェアの入場者数より少ないのも、大愛知として、万博記念としていいのか心配である。</p>	<p>当フェアにつきましては、県としましても愛知万博の10周年として位置付けており、今後どのような事業内容が相応しいのか、県民や専門家の意見等も伺いながら進めてまいりたいと考えております。</p> <p>いただいた御意見を参考に、今後策定する基本計画の中で具体的な事業展開を検討してまいります。</p>
20	<p>あいちらしさを演出が命題であるが、「あいちらしさ」の抽象的な言葉だけでほとんどその内容が表現されていないので、あいちらしさを表現する構想にされたい。</p> <p>9月から11月初旬までであるが、その時期の何の花・緑、何処の花・緑・紅葉を見せようとしているのか。驚くことに県花・県木を始め植物の名前や、花・緑の名所が一つも見あたらない。これで本当に花・緑を中心にした構想と言えるのでしょうか。香嵐渓、稲沢や桜通のイチョウ、新城市の棚田、滙美の電照菊、知多半島のコチョウランを始めとする鉢花等をどう活かすかすかの構想が必要である。また、あいちの産業特性とのリンクのあり方や方も皆無です。これではあいちらしさを出したことには全くなっていません。開花季節が違つ花や緑の名所等も写真や映像などであいちらしさを表現すべきです。</p> <p>行催事におけるこの季節のあいちの特性が必須であり、如何に構想段階と言えど抽象表現だけではあいちフェアの構想とは言えない。</p>	<p>いただいた御意見を参考に、「愛知らしさ」の具体的な事業展開内容について検討してまいります。</p>

ご意見		県の考え方
21	<p>「協働」が大きな柱になっているように見えるが、その中身が無く、多くの人に参加意欲が湧くような構想にされたい。</p> <p>全国都市緑化フェアは過去の事例に於いても当該地域の造園、花卉、緑化等の関連企業を始めとし、経済界、環境を重視する多くの企業、学会、マスコミ、交通事業者等々の「協働」者の意見を聞きつつ構想しなければ規模等が不明で、成功は覚束ない。</p> <p>構想段階に於いてもその枠組みをきちんと作らなければ単なる絵餅でしかない。今後作るにしても既に大きな時間的ロスを生じており、協働すべき者にも不快感を与えていないか危惧している。一刻も早く、速やかに挽回できる「協働」者に明るくい体勢を整えられたい。</p> <p>協働の数によって本フェアの量・質が決まる。多くを集めることが出来るような構想が必要である。</p>	<p>いただいた御意見を参考に、「協働」の具体的な事業展開内容について検討してまいります。</p>
22	<p>交通計画等のインフラ構想をきちんと見定められたものにされたい。</p> <p>入場者が100～150万人を目標としているがこの観客輸送の根拠がない。現状の交通事情をどう理解し、どう計画したのか明らかにして頂きたい。愛知万博でも関連事業として会場経費に劣らない額を計上しているが本計画には組み込まれているか。入り口が既存のものだけで足りるのか？基本ソーニング図でもその意志が見られない。</p> <p>駐車場も万博時のものを利用すると言っているが、既に区画整理施工中、計画中であり不可能。強引にするには莫大な経費が必要。</p>	<p>御意見にありましたように、交通計画等につきましてはフェアの成功のカギを握る大変重要な要素と考えております。</p> <p>リニモを始めとした公共交通機関の利用促進に努めることはもちろんのこと、駐車場対策についても今後策定する基本計画の中では、より具体的なシミュレーション等を実施したうえで検討してまいりたいと考えております。</p>
23	<p>行催事の構想も会場整備と合わせ集客に重要な事項であり、あいちらしさの演出が可能なる者の枠組みを入れられたい。</p> <p>可能性のあるステークホルダーと接触の上の構想が必要である。目標入場者を確保するためにも著名者やそれをプロデュースする構想が必要である。マスコミ構成も早期に構想をしなければならぬ。</p>	<p>御意見をいただきましたように、行催事についても、愛知万博やCOP10の開催に関連した「愛知らしさ」のある企画、パフォーマンス等を検討し、必要な調整を図ってまいりたいと考えております。</p> <p>なお、基本構想書の行催事計画の「(2)基本的な考え方」の中に、「花や緑に関心のある人だけでなく、大人も子供も緑化フェアに“わくわく”するような魅力ある行催事を展開する。」を追記します。</p>
24	<p>基本構想としての会場計画の基本的な事項を、一般市民が理解できるよう基本条件の整理等を示し、安全便利で、快適な利用、シンボルとなる魅力を示されたい。</p> <p>(1) 入場口の配置</p> <p>愛・地球博記念公園駅が中心になるが、万博当時は現状と違って大きな入り口となっていた。博後には通常利用用に改造し、特に地球市民センターへのデッキは2m程しかない。列車を待つ行列の場所が無い。また、センターゾーンへ行くエレベーターも容量が持たない。まずは動線計画を検討の上配置すべき。</p> <p>また、西口や、公園西駅からの導入も検討しなければならない。</p> <p>こうした基本的なネックの適切な処理を含む構想にして頂きたい。</p> <p>(2) 会場基本ソーニング図 (p.21) で各ゾーンが配置されているが、その全体的な位置付けや機能分担が不明確なので、入り口からのシークエンスや効果的な誘導演出が出来る構想を示されたい。</p> <p>(3) 動線を始め供給処理施設の検討が無い。電気、下水、トイレ等博後は大きく改修されており、基本インフラについての構想を持つ必要がある。</p> <p>(4) 地球市民交流センターを「学びのエリア」として展示等に行っているが、ここは当フェアのメインの玄関口でもあり、シンボリックな展示・演出の場であり招待客などを遇する場である。管理中核の場所でもあり、空間容量として無理が生じる。特に10周年記念事業としての対応も他のフェアとは違った要素を組み入れる必要がある。</p> <p>(5) 愛知万博10周年記念事業として、又、愛知らしさを象徴する本フェアのシンボル展示、イベント、演出が不可欠だと思います。その骨格(構想)を組込まれたい。</p>	<p>会場計画の基本的な事項につきましては、いただいた貴重な御意見を参考に、モリコロパークの施設、設備等を最大限に活かしたものとしよう、また、愛知万博10周年記念事業としての愛知らしさを象徴するイベント等につきましても、今後策定する基本計画の中で具体的に検討し、定めてまいりたいと考えております。</p>
25	<p>全体的に日本語が堅苦しく、一度読んだだけで頭に入ってこない。また、一つの文章が長すぎる。接続詞を使って、わかりやすい文章にしてはどうか。</p> <p>基本方針の～の中の文章は何か。方針を補足説明する言葉でしよるか？</p>	<p>御意見のとおり、4つの基本方針のそれぞれの内容をより具体的にイメージしていただけるよう表記したものです。</p>
26	<p>統一テーマと統一主題の関連がわかりづらい。</p> <p>テーマ、主題、キャッチコピーが長すぎてインパクトがなく県民に浸透しない。</p>	<p>「統一開催テーマ」につきましては国土交通省が提唱するもので、例年の全国都市緑化フェアの同一のテーマになっております。</p> <p>「統一主題」につきましては全国都市緑化フェア開催要綱に基づき、主催者側で定めるものですが、今後、当フェアを広くアピールするため、親しみのある愛称を広く県民等の皆さまから公募し、決定したいと考えております。</p>
27	<p>全体的に日本語の表現がわかりづらい。</p> <p>愛知万博、COP10の開催県である特色をもっと全面に出して、言葉遊びではなく、愛知でしか発信できないものを売りにしてはどうか。</p> <p>暮らしの中に緑を取り入れることについて、修景的な面だけでなく、「里」の暮らしを振り返ることで、緑の持つ力を実感できるようにしてはどうか。</p> <p>緑を愛する心を育てることが大切ではないか。そのためには、大人だけでなく子どもと一緒に学べるものがあるとうよい。</p> <p>モリコロパークでは、どんぐりによる森づくりの実績がある。</p> <p>イベントなどで、どんぐりの苗づくりを行ってはどうか。苗木を育てることを通して、緑を愛する気持ちを育てることができる。</p> <p>育てた苗木は、必要としている東北の学校、公園への支援としてもよいのではないかと。</p> <p>ただし、支援が、新設の押し売りにならないよう、本当に必要としているところへ、行政による十分な事前調整を行ったのちに実施することが必要。</p>	<p>御意見のように、愛知万博、COP10の開催県として、環境への取組みなど「愛知らしさ」の具体的な事業展開について、今後策定する基本計画の中で検討してまいります。</p> <p>御意見のように「里」の暮らしを振り返るような仕掛けについて、センターゾーンのうち「里の体感エリア」において、展開できるよう検討してまいります。</p> <p>本フェアにおきましては、子供から大人まで、また男女問わず楽しみ、参加・体験できるような企画・催事等の開催したいと考えております。</p> <p>また、開催前のイベント等においても、いただいた御意見にありましたような苗づくり等、緑化意識の向上に役立つような内容を検討してまいりたいと考えております。</p>

ご意見		県の考え方
28	<p>「愛知らしさ」が感じられない 概要版の2-(4)愛知ならではのフェアとあるが、統一主題(案)の中に、統一開催テーマにある「花」が欠落している。 この内容では、会場はともかく、どこの都道府県でも通用する内容で、愛知らしさが感じられない。 まず、統一主題の中に、はっきりと「花」を位置づけするべきだ。そこから愛知らしさがいくつも引き出せるはずである。</p>	<p>御意見にもありましたように、愛知県の花き産業は50年間も生産額全国一であり、県としてもこの機会に愛知らしさの一環として「花き」の位置づけをしっかりと検討してまいりたいと考えております。 なお、統一主題について【花を愛し、緑のチカラを知る…】に修正するとともに、基本構想全体を通して「花」を追加します。</p>
29	<p>一過性のイベントに終わらせるな！ これまで、愛知万博、COP10など環境に関する大きなイベントを開催してきたが、施設を除いて、その理念が、県民に浸透し、引き継がれているとは言い難い。今回も、この内容では、そういう可能性を心配せざるを得ない。何か県民運動として引き継がれていく事業のきっかけになるものを期待したい。</p>	<p>いただいた御意見につきましては公園マネジメント会議等、今後の県民協働事業の参考にさせていただきます。</p>
30	<p>モノづくり県は、緑化(本当は、「緑花」と書きたい)先進県でこそ尊敬されるべきだ。工場緑花を起点に県土を花と緑で一杯にしよう！ かつて、「工場緑化」という言葉がよく使われたが、今では、死語に近い状況だ。花と緑にあふれた環境の中で、モノづくりを進めれば、世界中から尊敬されよう。カネもつけだけでなく、県土や国土を緑と花で溢れる状況にすれば、ヒトの心も和らぐであろう。</p>	<p>貴重な御意見として参考にさせていただきます。</p>